

神奈川県
SDGs社会的インパクト評価実証事業（2020年度）

研修実施報告（概要と成果）

2021年3月24日
ケイスリー株式会社

1. 実施概要

1. 入門編

2. 実践編

2. 成果

1. 入門編

2. 実践編

3. まとめ

参考資料

1 実施概要

- SDGs社会的インパクト・マネジメント*に関する研修の入門編を3回、実践編を連続講座5回で実施した

入門編

実践編

目的	入門編	実践編
日程	<ul style="list-style-type: none"> SDGs社会的インパクト・マネジメントの普及 新たな関係者（金融機関を含む）とのつながりを作る 実践編への参加を促す（第1回のみ） 	<ul style="list-style-type: none"> 「SDGs社会的インパクト・マネジメントの実践事例づくり、普及者の育成」（事業者）
概要	<ul style="list-style-type: none"> 第1回 <ul style="list-style-type: none"> 「SDGs社会的インパクト・マネジメント」の説明 SDGs×インパクト投資の事例紹介 2019年度実践研修参加者の声 第2回 <ul style="list-style-type: none"> 実践研修参加者の女子サッカークラブ「大和シルフィード」の取り組みを例に、ロジックモデルをリアルタイムで作成 第3回 <ul style="list-style-type: none"> 実践研修参加者の保育士資格取得支援事業を行うキャリアフィールド株式会社と、インパクト投資を行う新生企業投資株式会社が「事業者と金融機関との対話を促すために重要なポイント」をテーマに対談 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回 <ul style="list-style-type: none"> SDGs社会的インパクト・マネジメントとは（ロジックモデルの説明） 第2回 <ul style="list-style-type: none"> SDGsを紐付けることの意義 データ収集計画について 第3回 <ul style="list-style-type: none"> 金融関係者による事例紹介 第4回 <ul style="list-style-type: none"> データ分析・まとめ方について 金融との接続に関する議論 第5回 <ul style="list-style-type: none"> 最終成果発表

1-1 実施概要—入門編

- 入門編では各回目的を置き、登壇者に有識者を招きながら計3回実施した

	目的	概要	登壇者
第1回 9/29 (火)	<ul style="list-style-type: none">「SDGsインパクト・マネジメン ト」の普及実践研修の告知	<ul style="list-style-type: none">「SDGsインパクト・マネジメン ト」の説明SDGs×インパクト投資の事例 紹介2019年度実践研修参加者の声	<ul style="list-style-type: none">山口 健太郎氏 (神奈川県理事)羽鳥 徳郎氏 (株式会社TBM)照沼 大氏 (日本ベンチャーキャ ピタル株式会社)今尾 江美子氏 (ケイスリー株式 会社)
第2回 12/3 (木)	<ul style="list-style-type: none">「SDGsインパクト・マネジメン ト」の普及	<ul style="list-style-type: none">女子サッカークラブ「大和シル フィード」の取り組みを例に、ロ ジックモデルをリアルタイムで作 成	<ul style="list-style-type: none">山口 健太郎氏 (神奈川県理事)大多和亮介氏 (大和シルフィード 株式会社)今尾 江美子氏 (ケイスリー株式 会社)栗野 泰成氏 (ケイスリー株式会 社)
第3回 2/4 (木)	<ul style="list-style-type: none">SDGs経営/SDGs金融に関心があ る方を対象に、実践のポイントを 紹介	<ul style="list-style-type: none">保育士資格取得支援事業を行う キャリアフィールド株式会社と、 インパクト投資を行う新生企業投 資株式会社が「事業者と金融機関 との対話を促すために重要なポイ ント」をテーマに対談	<ul style="list-style-type: none">都築 裕一氏 (キャリアフィール ド株式会社)黄 春梅氏 (新生企業投資株式会 社)今尾 江美子氏 (ケイスリー株式 会社)
全体で 目指すこと	<ul style="list-style-type: none">「SDGsインパクト・マネジメン ト×金融」の普及		

1-2 実施概要—実践編

- 実践編では計5回のプログラムを設計し、事例づくりと関係者のつながりの構築を大目的に実施した

	目的	概要	登壇者・講師
第1回 11/5 (木)	<ul style="list-style-type: none"> 研修参加者の到達目標を明確化 SDGsインパクト・マネジメントの全体像を把握 ロジックモデル作成方法を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 神奈川県挨拶 SDGsインパクト・マネジメントとは ロジックモデルの説明 	<ul style="list-style-type: none"> 山口 健太郎氏 (神奈川県理事) 落合 千華氏 (ケイスリー株式会社) 今尾 江美子氏 (ケイスリー株式会社)
第2回 11/20 (金)	<ul style="list-style-type: none"> アウトカムとSDGsの紐付け データ収集方法について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsを紐付けることの意義 データ収集方法レクチャー 	<ul style="list-style-type: none"> 今田 克司氏 (株式会社ブルー・マーブル・ジャパン) 高橋 聖子氏 (ケイスリー株式会社)
第3回 12/4 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ロジックモデル、データ収集計画のブラッシュアップ SDGsと金融との接続のイメージを持つ 	<ul style="list-style-type: none"> 第1,2回の振り返り 金融事例紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 黄 春梅氏 (新生企業投資株式会社) 山本 卓也氏 (株式会社滋賀銀行) 千葉 直紀氏 (ケイスリー株式会社)
第4回 1/8 (金)	<ul style="list-style-type: none"> データ分析・まとめの方法を学ぶ 金融との接続について議論する 	<ul style="list-style-type: none"> データ分析・まとめ方レクチャー 金融との接続に関する議論 	<ul style="list-style-type: none"> 黄 春梅氏 (新生企業投資株式会社) 山本 卓也氏 (株式会社滋賀銀行) 松井 孝憲氏 (一般社団法人KIBOW) 小笠原 由佳氏 (一般財団法人 社会変革推進財団)
第5回 1/22 (金)	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の最終成果発表 	<ul style="list-style-type: none"> 最終成果発表 	<ul style="list-style-type: none"> 山口 健太郎氏 (神奈川県理事) 黄 春梅氏 (新生企業投資株式会社) 落合 千華氏 (ケイスリー株式会社) 今尾 江美子氏 (ケイスリー株式会社)
全体で 目指すこと	<ul style="list-style-type: none"> SDGsインパクト・マネジメントや金融機関との接続の事例づくり 事業者や金融機関を含む参加者のつながり構築 		

2 成果

- 入門編では343名、実践編では12組織26名の参加者が研修を受講した

入門編

実践編

参加者・
組織数等

第1回 **144**名
第2回 **111**名
第3回 **88**名

参加組織
12社

参加者
26名

期待に対する満足度 **88%**
218/247人

SIMを学ぶ意向 **77%**
189/247人

証書発行※
22枚

平均出席率
86%
112/130回

※所定の条件を満たした参加者に「神奈川県SDGs社会的インパクト・マネージャー」課程の修了証書を発行

第1回

- ESG投資のさらに先を行く取り組みを知ることができて、とても有意義でした。
- 神奈川県内のSDGsの動きがよくわかった。

第2回

- ロジックモデルの作成プロセスの流れを知ることが出来、とても勉強になりました。
- 今までの各種SDGsセミナーのなかで、一番具体的にわかりやすかった。

第3回

- ロジックモデルの構築の仕方、どのような指標になるのか具体的な事例で聞いて、理解が深まった。
- 金融機関からの評価、判断視点があったのが何より参考になりました。

第2回

- ロジックモデルは誰に何を説明するための資料なのかを意識した。
- 誰が購買層なのかではなく、誰が一番困っているのかの視点が大切だと気づいた。

第3回

- SDGsに取り組む企業への金融機関のスタンスを知ることができた。
- 実際のインパクト投資の事例及びロジックモデルのインセンティブ機能を知ることができた。

第4回

- データは集めて分析することに意味があるが、まず目的を明確にし出口をイメージする必要がある。分析の手法はそれによる。具体例を見られてよかった。

アンケート
結果・
出席率等

寄せられた声の一部

2-1 成果—入門編（第1回）

- 入門編第1回ではのべ144名が視聴。アンケート回答者116名のうち、7割超が「より学んでみたいと思った」と回答、4割超が「取り組んでみたいと思った」と回答

参加者・
組織数

延べ視聴者数

144名

最大同時視聴者数

122名

申込数

183名

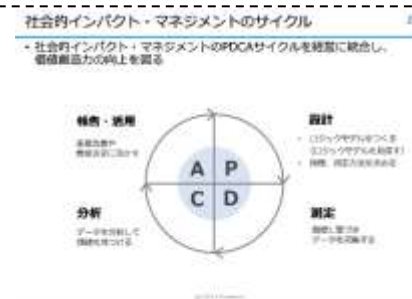
研修の様子



神奈川県による冒頭の挨拶



インパクト投資家の黄氏が視聴者の質問に回答

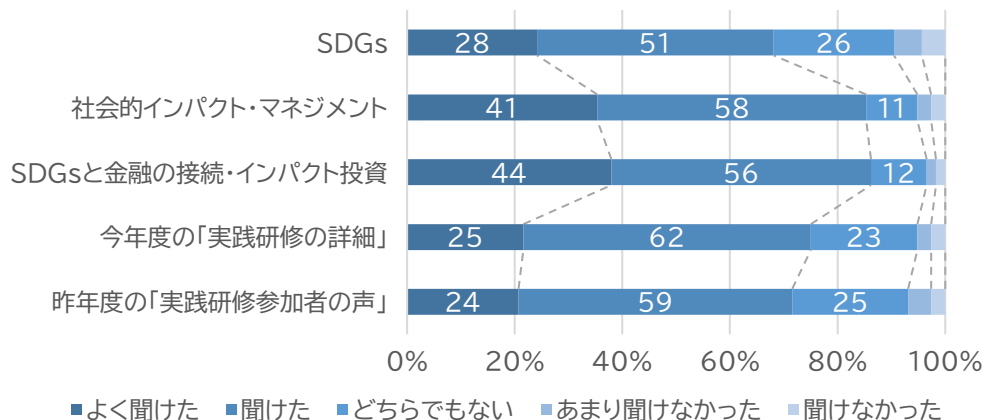


社会的インパクト・マネジメント説明図

回答数：116

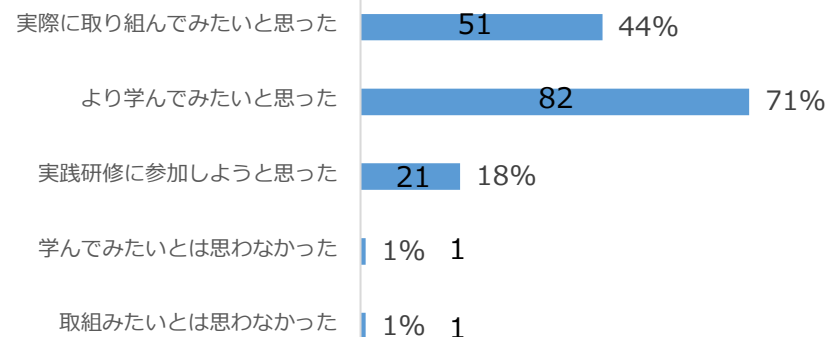
研修での理解・学びでは全ての項目で約7割が肯定的な回答

以下の各トピックについて期待していた事は聞きましたか



今後SIMを学んでみたいが7割超、取り組みたいが4割超の回答

セミナーを聞いて「社会的インパクト・マネジメント」について
どう思われましたか（複数回答可）



アンケート結果

2-1 成果—入門編（第2回）

- 入門編第2回ではのべ111名が視聴。アンケート回答者81名のうち、8割超が「より学んでみたいと思った」と回答、4割超が「取り組んでみたいと思った」と回答

参加者・
組織数

延べ視聴者数

111名

最大同時視聴者数

105名

申込数

160名

研修の様子



SIMの説明



事例として活用する女子サッカーチームの取組紹介



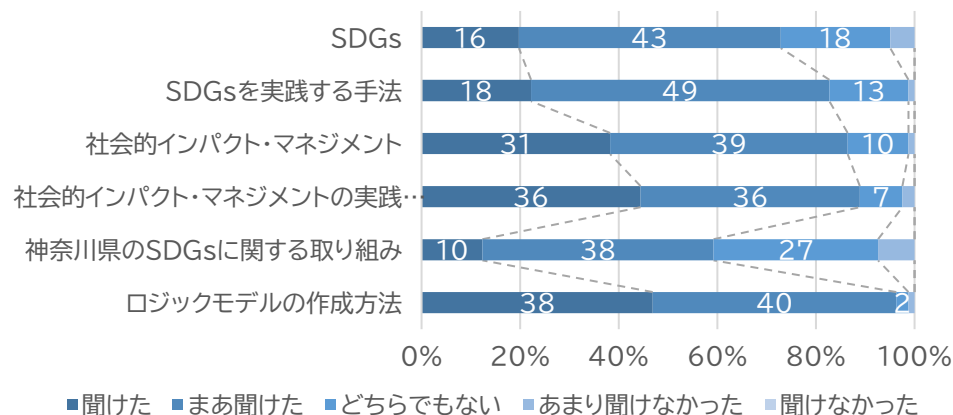
入門編研修内でのロジックモデル作成の様子

回答数：81

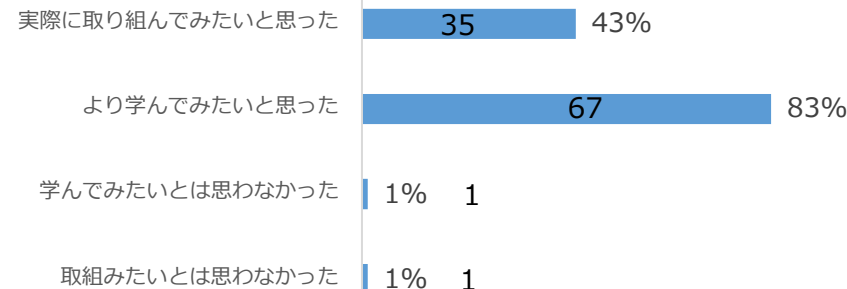
研修での理解・学びではほぼ全項目で7割超が肯定的な回答

今後SIMを学んでみたいが8割超、取り組みたいが4割超の回答

以下の各トピックについて期待していた事は聞けましたか



セミナーを聞いて「社会的インパクト・マネジメント」についてどう思われましたか（複数回答可）



アンケート結果

2-1 成果—入門編（第3回）

- 入門編第3回ではのべ88名が視聴。アンケート回答者50名のうち、8割が「より学んでみたいと思った」、5割超が「取り組んでみたいと思った」と回答

参加者・
組織数

延べ視聴者数

88名

最大同時視聴者数

72名

申込数

109名

研修の様子



インパクト投資ファンドの紹介



事例として扱う保育士育成事業の取組紹介

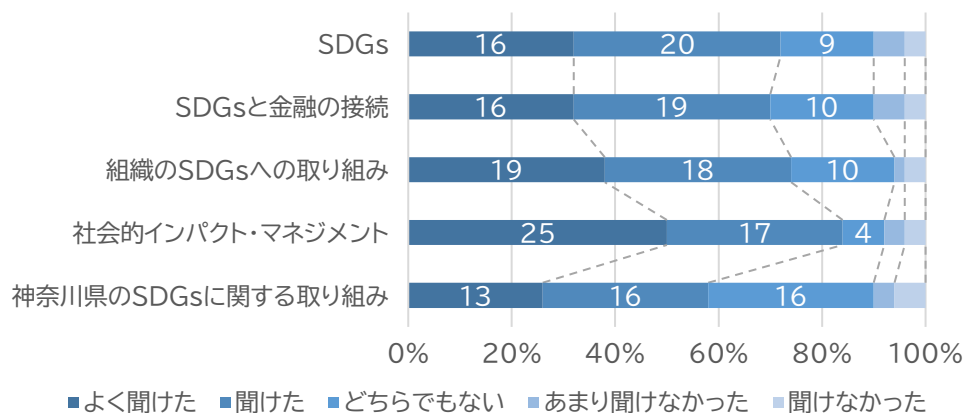


入門編研修内でのロジックモデル作成の様子

回答数：50

研修での理解・学びではほぼ全項目で7割超が肯定的な回答

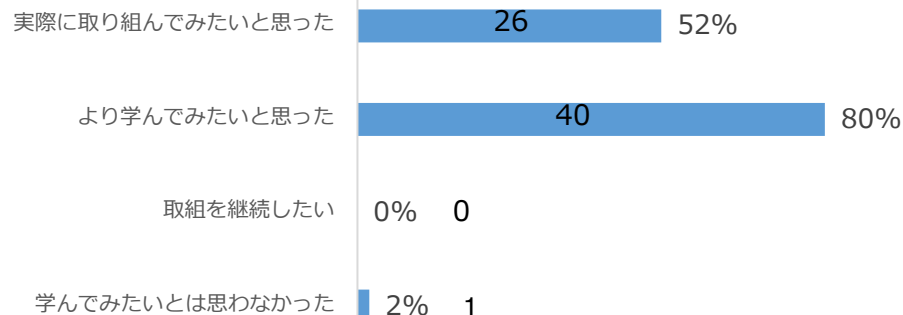
以下の各トピックについて期待していた事は聞けましたか



今後SIMを学んでみたいが8割、取り組みたいが5割超の回答

セミナーを聞いて「社会的インパクト・マネジメント」について

どう思われましたか（複数回答可）



アンケート結果

2-2 成果—実践編

- 実践編では12組織26名が受講し、そのうち22名が神奈川県SDGs社会的インパクト・マネージャーの認定を受けた

参加者・
組織数

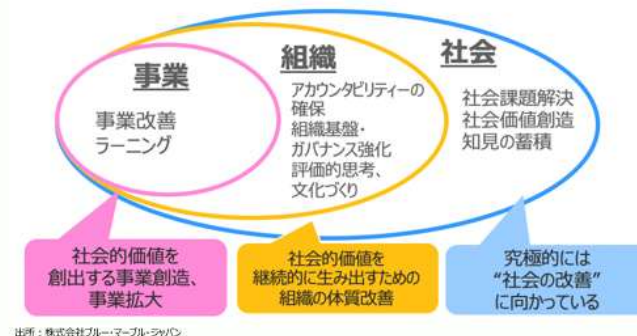
参加組織
12社

参加者
26名

証書発行
22

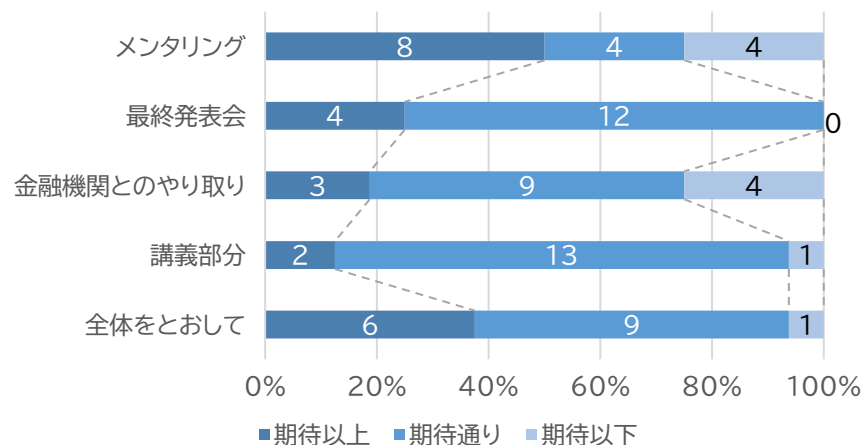
平均出席率
86%
112/130回

研修の様子



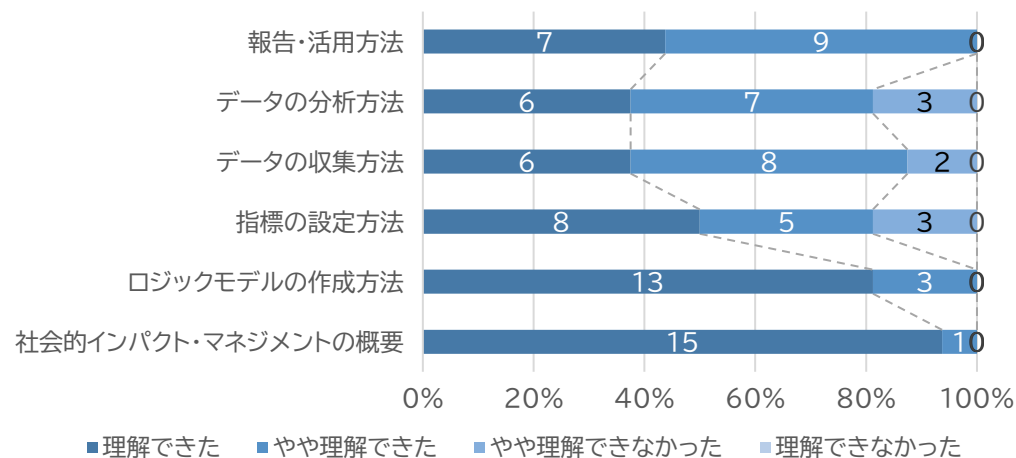
- 回答数: 16
- メンタリング、全体の順で期待以上の満足度という回答

実践研修の各内容についての満足度



- 社会的インパクト・マネジメントの概要、ロジックモデルの作成方法について8割以上の参加者が理解できたという回答

社会的インパクト・マネジメントにおける各ステップの理解度



アンケート結果

2-2 成果—実践編

- 実践編ではロジックモデルは社内外の関係者への説明、巻き込みに使えるツールだという声が多かった

参加者からの声の一部

SDGsインパクト・
マネジメント全体に
関して

- ロジックモデルを作成することは、やろうとしていることの説明だけではなく、**新たな気づきを得るフレームワーク**でもあると感じた
- SDGsとインパクト評価、地域の課題解決のための事業が相互に関連づけられていることの説明を通して、**ステークホルダーへの理解協力を取り付ける技法が確認できた**と思う

事業改善・組織強化
に関して

- 外部の検討メンバーから、社会的インパクト・マネジメントについてお喋りする時間があるといいという声が聞かれ、**組織の運営に関わる人がより多く参加するような場を設けることになった**
- ロジックモデルを作成する過程での**社内検討で、新たな機能の必要性に気がつくことができた**
- 今回の研修で学んだ事を社内で共有し、**足腰の強い組織にする目標ができた**

金融機関を含む
関係者とのネット
ワークづくり
に関して

- アクセラレーターや投資家向けのピッチなどで、今回の研修で学んだ知識・考え方を活用している**
- ロジックモデルは自社だけではなく、ステークホルダーにも提供できる事を学んだ事は、**今後の営業活動を行うにあたっての強みとなった**

2-2 成果—実践編（第1回）

- 実践編第1回ではSDGsインパクト・マネジメントの全体像を説明

研修の様子



SIMの紹介



SDGsインパクト・マネジメントの説明

ミニクイズ

アウトプット・アウトカムのどちらでしょう？

健康増進プログラムの場合

1. プログラムを月2回実施する
2. 参加者が100人来る
3. 参加者の平均体重が1kg減少
4. 健康意識が「高くなった」人の割合が60%に向上

アウトカムの説明

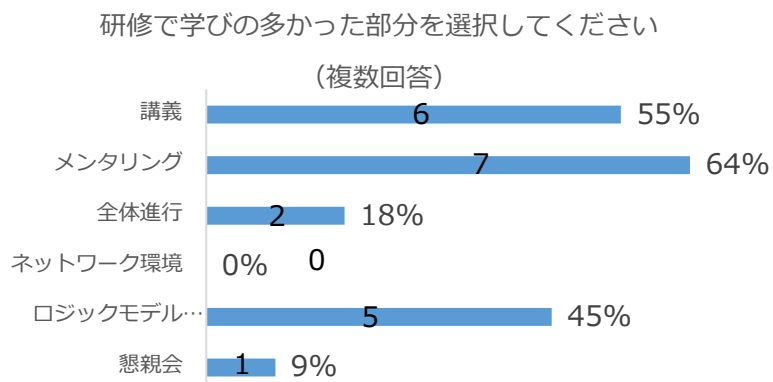
実施結果

- SDGsの基礎では、企業がSDGsに取り組む意義や必要なプロセスを説明
- 社会的インパクト・マネジメントに関する講義では、ロジックモデルの作成方法を説明
- メンタリングの中では、研修参加者が研修を通して到達したい目標を明確化
- 研修参加者は研修の全体的な流れを把握し、自らの事業のロジックモデル作成課題に取り組んだ

アンケート結果

- 回答数：11

メンタリング、講義の順で学びが多いという回答



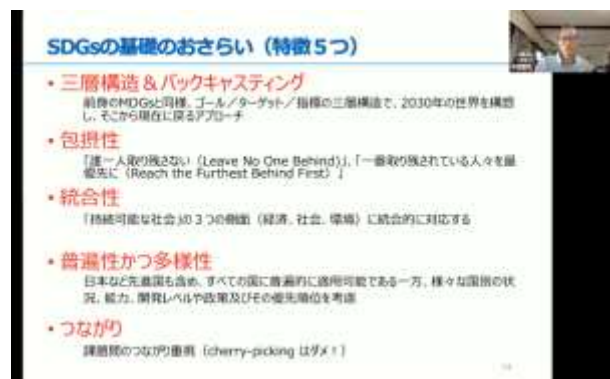
研修での学びではアウトカム・アウトプットに関することが挙げられた

- Q2：特に学びの多かった部分を具体的に教えてください
- アウトプットとアウトカムの違いが分かった
 - SDGsインパクト・マネジメントの全体像が理解できた

- Q5：研修内でモヤモヤしたことがあれば、ご記入ください
- 何をゴールとすべきか、何のデータを集めるか
 - アウトカムの抽象度や記述の仕方に悩んでいます

- 実践編第2回ではアウトカムとSDGsゴールの紐付け、データ収集計画について説明

研修の様子



有識者今田氏によるSDGsの説明



SDGsとの紐付けの説明



データ収集計画の説明

実施結果

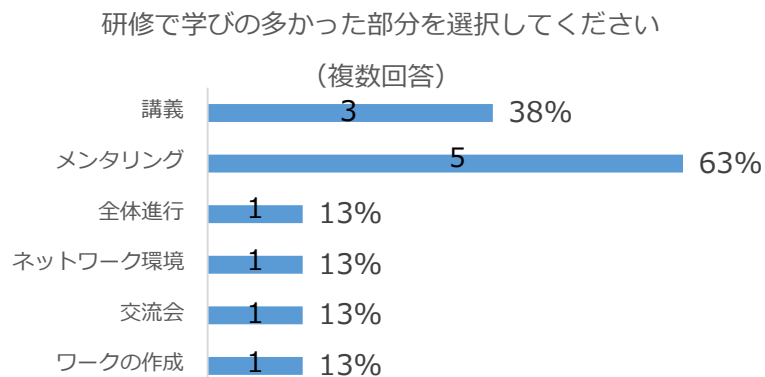
- SDGsの基礎では、SDGsの来歴・アウトカムとSDGsゴールを紐づける方法を説明
- 社会的インパクト・マネジメントに関する講義では、データ収集計画の作成方法を説明
- メンタリングの中では、参加者が作成したロジックモデルに対しフィードバックを実施。SDGsとの紐付けやデータ収集計画を意識したロジックモデルのブラッシュアップが可能となった

回答数：8

メンタリング、講義の順で学びが多いという回答

研修での学びでは関係者に関する理解の深まりが挙げられた

アンケート結果



Q2：特に学びの多かった部分を具体的に教えてください

- ロジックモデルは誰に何を説明するための資料なのかを意識
- 誰が購買層なのかではなく、誰が一番困っているのかの視点が大切

Q5：研修内でモヤモヤしたことがあれば、ご記入ください

- 研修第2回の進行が全体的に速すぎるのでは？
- もっと1社あたりのメンタリング時間を増やして欲しい

2-2 成果—実践編（第3回）

- 実践編第3回ではSDGsと金融との接続のイメージを意識してもらうため、金融関係者を招聘し取り組みを紹介していただいた

研修の様子



滋賀銀行サステナビリティ・リンク・ローンの説明



社会的インパクト・マネジメントの実施領域

原則	内容（概説）
a ステークホルダーの参加・協働	対象となる組織・事業のステークホルダーの幅広い参加・協働。特に、目標や課題、評価目的などについて、ステークホルダー間で共通の価値を構築する。
b 重要性（マテリアリティ）	事業群（内部）、事業対象者、受益者、資金提供者、買手機関、その他のステークホルダー（外部）の課題決定するための必須情報を優先させる。
c 信頼性	信頼できる方法で収集され、検証されたデータ、信頼性のある主要な十分な評価報告を掲げる。
d 透明性	全面的な情報の検証可能性。分析が正確かつ誠実になされた結果を提示・報告する。
e 比例性	組織や事業に過度な負担をかけないように、評価を実施する範囲の選定、組織や利用可能な資源や評価の目的に応じて評価方法や報告・情報開示の方法が選択されること。
f 経時的比較可能性	経時的比較が可能となるよう、以前の報告と同じ期間、同じ対象と活動、同じ評価方法で測定づけられ、同じ構造を持つて報告されることが望ましい。
g 一般化可能性	評価の知見を同一分野の他事業、その他の地域、対象などに応用可能なものとするような工夫。

必須会
事
目
的
次
第

出所：経団連のSDG-リポート（2022）

評価における重要な「5+2の原則」

実施結果

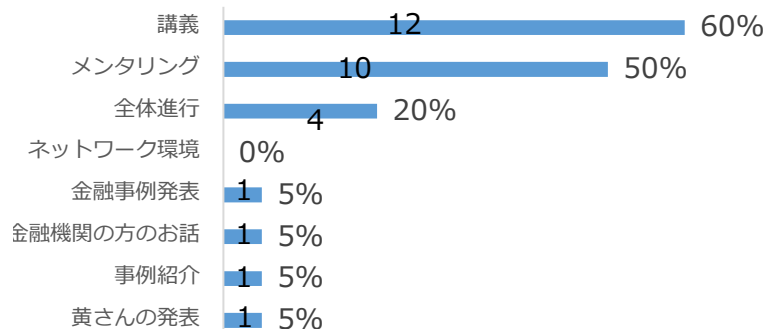
- 第1回、第2回の振り返りではロジックモデル作成や指標設定の中で、研修参加者が感じるもやもやを可視化した
- グループメンタリングの中では各組織のロジックモデルに対する相互フィードバックの時間を設けた
- 投資、融資それぞれの関係者を招聘し、SDGs達成を後押しする金融機関の具体的な取り組みを紹介していただいた

アンケート結果

- 回答数：20

講義、メンタリングの順で学びが多いという回答

研修で学びの多かった部分を選択してください（複数回答）



研修での学びでは金融機関の取組に関することが挙げられた

Q2：特に学びの多かった部分を具体的に教えてください

- SDGsに取り組む企業への金融機関のスタンスに触れられたこと
- 実際のインパクト投資の事例及びロジックモデルのインセンティブ機能

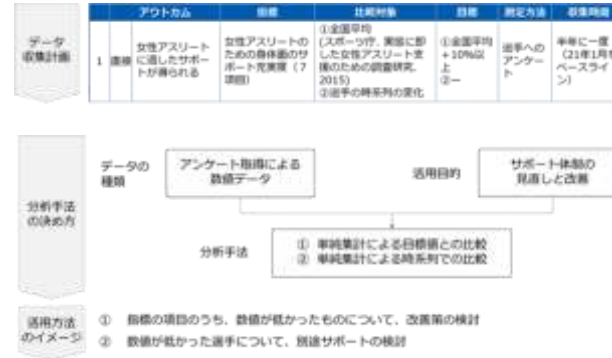
Q4：特に改善すべき点を具体的に教えてください

- 直接、中間、最終の3段階では、因果関係の説明が難しかったので、直接を二つの観点に分けた
- 時間配分（前半の「振り返り」が少し時間をかけすぎた印象で、もう少しメンタリングや、最後の事例共有を多く拝聴したいなと感じました）

2-2 成果—実践編（第4回）

- 実践編第4回ではデータ分析・まとめ方に関する説明、金融との接続に関する議論の場を設けた

研修の様子



事業者の発表に対する金融関係者のコメント

データ収集計画から活用方法までの事例紹介

関係者との対話に用いるまとめ方の事例

実施結果

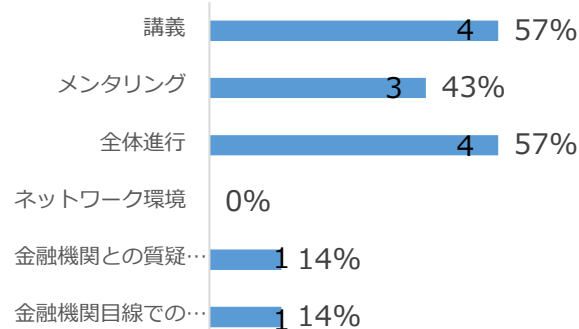
- データ分析・まとめ方に関するレクチャーの中では、データ分析結果は、改善策を導き出すことに加えて、ロジックモデルと合わせて関係者との共有・対話にも活用することが可能だと説明
- 金融との接続に関する議論では、ロジックモデルを活用した事業者と金融機関との対話の場を提供

回答数：7

講義に関して学びが多かったという回答

研修での学びではデータ収集・分析に関することが挙げられた

研修で学びの多かった部分を選択してください（複数回答）



Q2：特に学びの多かった部分を具体的に教えてください

- データは集めて分析することに意味があるが、まず目的を明確にし出口をイメージする必要がある。分析の手法はそれによる。具体例を見られてよかった

Q4：特に改善すべき点を具体的に教えてください

- 金融機関の方からフィードバックで上がった点「誰に見せるためのものなのか」は研修の最初の方の回で提示していただき、4回目のデータ分析の手法について深掘していただくと、研修後どうしていくかや指標を考えやすくなる方もいらっしゃるかなと思いました

アンケート結果

- 実践編第5回では各組織の目的に沿って研修での成果を発表する場を設けた

研修の様子



研修参加者の発表



コメントシートを用いて相互フィードバック



発表者へのコメント風景

実施結果

- 最終発表では、各組織の目的に沿って研修での成果を発表する場を設けた。
 - 新生企業投資株式会社の黄氏、ケイスリー株式会社の落合、今尾がコメントーターを務めた。
- 閉会挨拶では、神奈川県政策局SDGs推進課の船山課長にご挨拶いただいた。

発表に対する
コメントの一部

- 保育士不足の課題は多くの人認識している重点課題である。（指標として設定している）報酬や就労率の改善については前回の発表から改善しており、素晴らしいと思った。また、SDGsのゴールの拡張性を持たせることが重要であるので、現状に加えて、それを（ロジックモデル上に）表現したら良いと思う。（キャリアフィールド株式会社への新生企業投資株式会社黄氏からのコメント）
- （石渡住宅サービス合同会社にとって）このロジックモデルを作ることで新規事業を考えるヒントになったのではないと思う。在宅ワークやデュアルライフが増えてきた中、住宅サービスを多様な人に提供する視点が芽生えたら良いと思った。それにより、若者とお年寄りが交流することで、街を活性化できたりもするだろう。また、他社と連携する視点が入っても良いと思った。（石渡住宅サービス合同会社への新生企業投資株式会社黄氏からのコメント）

アンケート・ヒアリング結果

1. 入門編
2. 実践編

1 アンケート・ヒアリング結果—入門編

- 第1回では116件のアンケート回答が得られ「SIMをより学んでみたいと思った」回答者は7割を超えた

回答数

アンケート回答数

116件

SIMを実際に取り組んで
みたいと思った

44%

51/116人

SIMをより学んで
みたいと思った

71%

82/116人

セミナー感想の一部

神奈川県でのSDGsに関する取組に加え、ESG投資やインパクト投資に関する学びがあったと挙げられ、今後のニーズとしては具体的な事例やロジックモデルの作成ポイントなどが挙げられた

学びとなった点

- ESG投資のさらに先を行く取り組みを知ることができて、とても有意義でした
- 神奈川県内のSDGsの動きがよくわかった
- インパクト投資の仕組みがよくわかりました

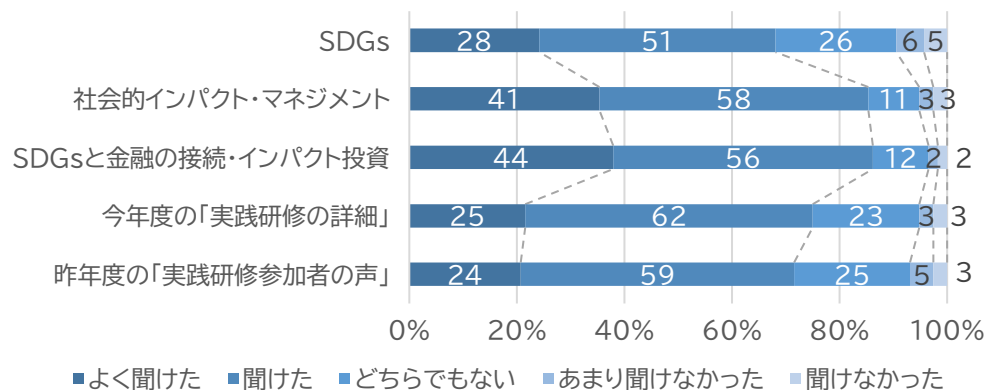
さらに聞きたいトピック

- 社会的インパクト・マネジメントの事例
- ロジックモデルの具体例、作成に当たってのポイント
- 指標の使い方、データ取得方法について

アンケート結果

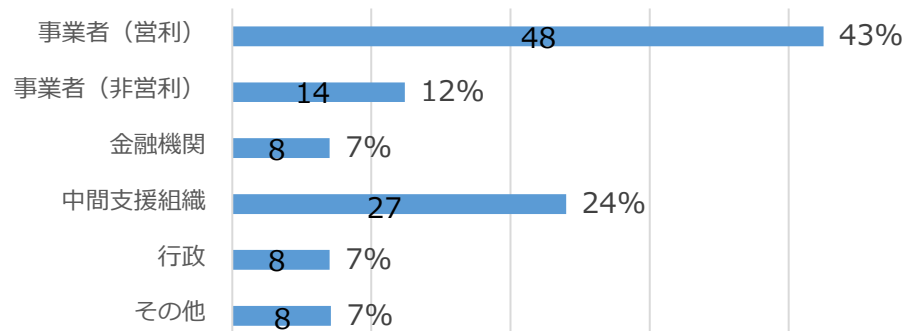
「SDGsと金融との接続・インパクト投資」について
(よく) 聞いたという回答が最も多く86%

以下の各トピックについて期待していた事は聞けましたか



事業者（営利）の参加者が
最も多く43%

ご自身の立場を選択してください



1 アンケート・ヒアリング結果—入門編

- 第2回では81件のアンケート回答が得られ「SIMをより学んでみたいと思った」回答者は83%

回答数

アンケート回答数	SIMを実際に取り組んで みたいと思った	SIMをより学んで みたいと思った	次回セミナーに 参加してみたい
81件	43% 35/81人	83% 67/81人	94% 76/81人

セミナーの感想一部

ロジックモデル作成のプロセスに関する学びがあったと挙げられ、今後のニーズとしては優良事例の紹介などが挙げられた

学びとなった点

- ロジックモデルの作成プロセスの流れを知ることが出来、とても勉強になりました。
- イメージが非常にわかりやすかったです。
- 今までの各種SDGsセミナーのなかで、一番具体的でわかりやすかったです。

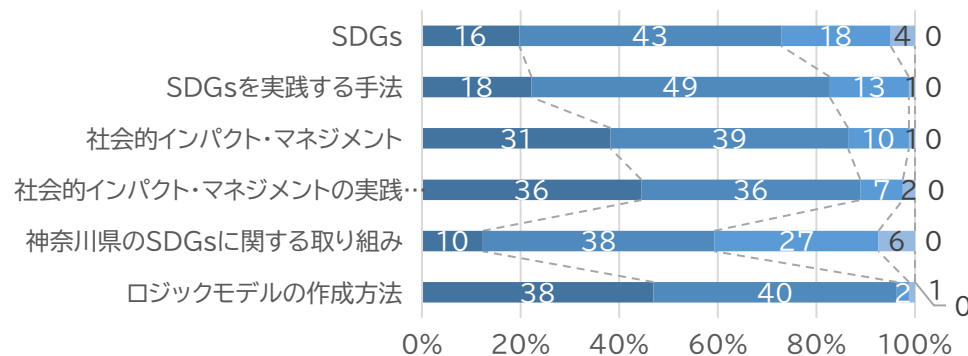
さらに聞きたいトピック

- 実際にSIMを活用をしてうまくいっている具体例
- 数値化、測定方法の考え方
- アウトカムの測り方や、それを対外的に発信する方法

アンケート結果

「ロジックモデルの作成方法」について
(まあ) 聞けたという回答が最も多く96%

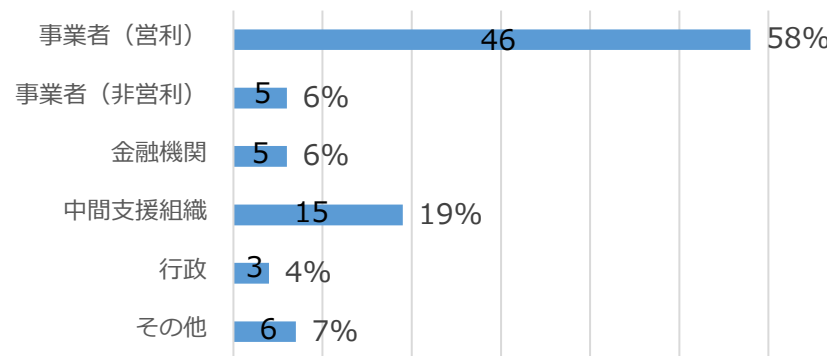
以下の各トピックについて期待していた事は聞けましたか



■聞けた ■まあ聞けた ■どちらでもない ■あまり聞けなかった ■聞けなかった

事業者（営利）の参加者が最も多く58%

ご自身の立場を選択してください



1 アンケート・ヒアリング結果—入門編

- 第3回では50件のアンケート回答が得られ「SIMをより学んでみたいと思った」回答者は80%

回答数

アンケート回答数	SIMを実際に取り組んで みたいと思った	SIMをより学んで みたいと思った	次回セミナーに 参加してみたい
50件	52% 26/50人	80% 40/50人	94% 47/50人

セミナー感想

ロジックモデル作成のプロセス、金融機関からのコメントに関する学びがあったと挙げられ、今後のニーズとしては具体的なSDGsとの紐づけ・分析方法が挙げられた

学びとなった点

- ロジックモデルの構築の仕方、どのような指標になるのか具体的な事例でお話いただけただけで理解が深まりました
- 金融機関からの評価、判断視点があったのが何より参考になりました

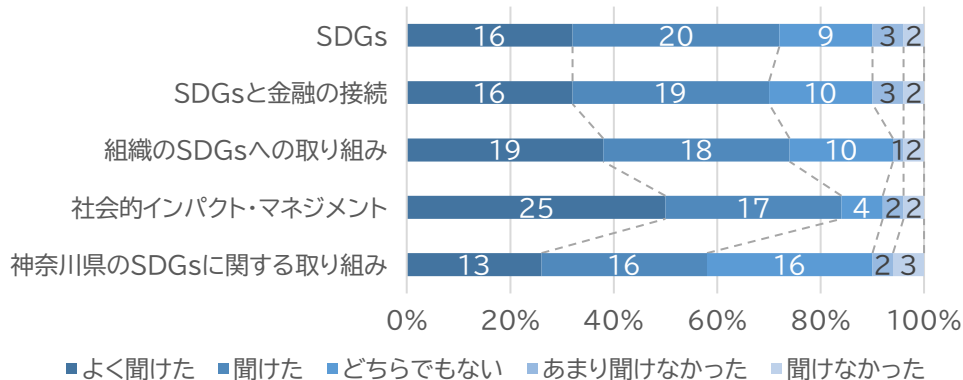
さらに聞きたいトピック

- ロジックモデルとSDGsとの関連はただSDGsの何番に関係するかを考えるだけで良いのか、それ以外に分析・検討できることがあるのか
- 事業者視点で、資金調達の方法やパターン、行政の巻き込み方

アンケート結果

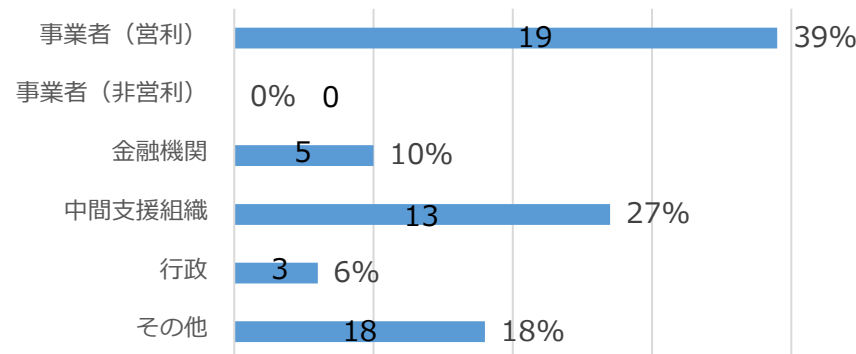
「社会的インパクト・マネジメントの実践事例」について
(まあ) 聞けたという回答が最も多く84%

以下の各トピックについて期待していた事は聞けましたか



事業者（営利）の参加者が最も多く39%

ご自身の立場を選択してください



2 アンケート・ヒアリング結果—実践編

- 第1回では出席者数21名、出席率は81%であった。

数字で表す
結果

アンケート回答数

11件

出席者数

21名

出席率

81%

21/26人

受講時間

3時間

気づきとしては、関係者とのコミュニケーションに関する点が挙げられ、今後の希望に関しては他社との連携などが挙げられた

研修感想

研修内での気づき

- 誰に向けたコミュニケーションか、という点と、その「誰か」先に誰がいるか、という部分が改めて自分の中で整理できました
- アウトプット、アウトカムの考え方

改善点や、今後に向けた希望・提案など

- 今後、ロジックモデル作成など、事業内容を整理をすることで事業へのフィードバックができるのではと感じた
- 是非、他の方々とも連携をしていければと思います
- タイムマネジメントもしっかりされており、良かったと思います

研修での学びではアウトカム・アウトプットに関することが挙げられた

アンケート結果

研修で学びの多かった点

- メンターの方から課題分析方法に関するアイデアを頂いた。
- 事業に関連するステークホルダーごとに課題を整理すること。
- アウトプットとアウトカムの違いが分かった。
- SDGsインパクト・マネジメントの全体像が理解できた。

研修内でモヤモヤした点

- 何をゴールとすべきか、何のデータを集めるか。
- アウトカムの抽象度や記述の仕方に悩んでいます。
- メンタリングの時間に、他の参加者の方がメンタリングを受けているとき、自分はどう参加したらいいか。

2 アンケート・ヒアリング結果—実践編

- 第2回では出席者数22名、出席率は85%であった。

数字で表す
結果

アンケート回答数

8件

出席者数

22名

出席率

85%

22/26人

受講時間

3時間

研修感想

気づきとしては、ロジックモデル整理とSDGsとの紐づけに関する点が挙げられ、今後の希望に関してはインパクト投融資の事例紹介や、参加者内でのコミュニケーションの増加が挙げられた

研修内での気づき

- フレームワークをシンプルにすると、思考が研ぎ澄まされることを感じました
- ロジックモデルの整理、SDGSとの紐づけ

改善点や、今後に向けた希望・提案など

- 参加者の交流の機会がもう少し多いと嬉しいです
- SDGSインパクト融資、投資の具体的な事例、内容について知りたいです
- もっと、参加者全員で議論する場・機会・時間を増やして欲しい

研修での学びでは関係者に関する理解の深まりが挙げられた

研修で学びの多かった点

- メンタリングによって、ロジックモデルの具体的な表現について少し精査できた。
- SDGsと事業収益のは別で考えてもよいという点。
- ロジックモデルは誰に何を説明するのかを意識。
- 誰が購買層なのかではなく、誰が一番困っているのかの視点が大切。

研修内でモヤモヤした点

- 研修第2回の進行が全体的に速すぎるのでは？
- もっと1社あたりのメンタリング時間を増やして欲しい。
- もっと、参加者全員で議論する場・機会・時間を増やして欲しい。
- SDGSインパクト融資、投資の具体的な事例、内容について知りたいです。

アンケート結果

2 アンケート・ヒアリング結果—実践編

- 第3回では出席者数22名、出席率は85%であった。

数字で表す
結果

アンケート回答数

20件

出席者数

22名

出席率

85%

22/26人

受講時間

3時間

気づきとしては、ロジックモデル整理とSDGsとの紐づけに関する点が挙げられ、今後の希望に関してはインパクト投融資の事例紹介や、参加者内でのコミュニケーションの増加が挙げられた

研修感想

研修内での気づき

- ロジックモデル構築手法に確固とした決まりはないことがわかった
- アウトカムの曖昧さをエピソードを考えながら具体化し指標に落とし込んでいく部分は、なるほどと感じました

改善点や、今後に向けた希望・提案など

- インパクト評価とSDGs、自社のファイナンスに向けての紐づけがイメージ出来てきました
- 神奈川の地域金融機関の取り組み、そして、金融機関を監督する金融庁・関東財務局や日本銀行の担当官のSDGs金融についての方針を聞きたい

研修での学びでは金融機関の取組に関することが挙げられた

アンケート結果

研修で学びの多かった点

- データ収集に関するアドバイス。
- 黄さんの事例紹介。
- SDGsに取り組む企業への金融機関のスタンスに触れられたこと。
- 実際のインパクト投資の事例及びロジックモデルのインセンティブ機能。

研修内でモヤモヤした点

- 直接、中間、最終アウトカムの3段階では、因果関係の説明が難しかった。
- 時間配分（前半の「振り返り」が少し時間をかけすぎた印象で、もう少しメンタリングや、最後の事例共有を多く拝聴したいなと感じました）
- ロジックモデルを分かりやすくしたいが、色々な因果関係を結びつけると複雑になってしまう。

2 アンケート・ヒアリング結果—実践編

- 第4回では出席者数23名、出席率は89%であった。

数字で表す
結果

アンケート回答数

7件

出席者数

23名

出席率

89%

23/26人

受講時間

3時間

気づきとしては、他社の発表を聞くことによるロジックモデルの意義への気づきが挙げられた

研修内での気づき

- 事業性評価に基づく融資とSDGs融資との関連性
- それまでの作成経緯を知らない別班の方の発表を聞いたことで、「ロジックモデルがあることで事業の全体像がぱっと見わかりやすく感じる」という感覚がわかりました

改善点や、今後に向けた希望・提案など

- ロジックモデルをつくるプロセスで内部の合意形成に取り組めたことも重要でしたが、今回のお話を伺い、ではこれをどこに発信していこうかという考えが具体的になり貴重な機会を頂きました

研修感想

研修での学びではアウトカム・アウトプットに関することが挙げられた

研修で学びの多かった点

- 金融機関が各発表者のプレゼンをどのような目線で見ているのかや、ブラッシュアップすべき点への指摘が非常に良かった。
- データ収集の負荷もよく検討すべきという点。
- 事業性評価に基づく融資とSDGs融資との関連性。

研修内でモヤモヤした点

- オンラインでもしっかり知識を定着させる方法。簡易的なテストとかがあったら違うのでしょうか。
- データ収集について、目的や出口を事前にどのくらい明確にする必要があるか。

アンケート結果

2 アンケート・ヒアリング結果—実践編

- 第5回では出席者数23名、出席率は89%であった。

数字で表す
結果

アンケート回答数

16件

出席者数

23名

出席率

89%

23/26人

受講時間

3時間

参加者から挙げられた
フィールドバックを
求めるポイント

- 社会性と経済性の接続に関する説得力の有無（大和シルフィード株式会社）
- 収益性とSDGs主旨のバランスと納得性について（レスティル株式会社）
- 金融関係者様が望むロジックモデルとは具体的にどのようなものか（株式会社ケイ・システム）
- ロジックモデルはある程度固まってきたように思いますが、地域創生の事業をSDGSの中でどのように位置づけていけるのか、設定するKPIは何が妥当であるのか、ご意見などいただけますと幸いです（アグリマス株式会社）
- 行政との連携を行うにあたってのポイント（株式会社藤枝MYFC）

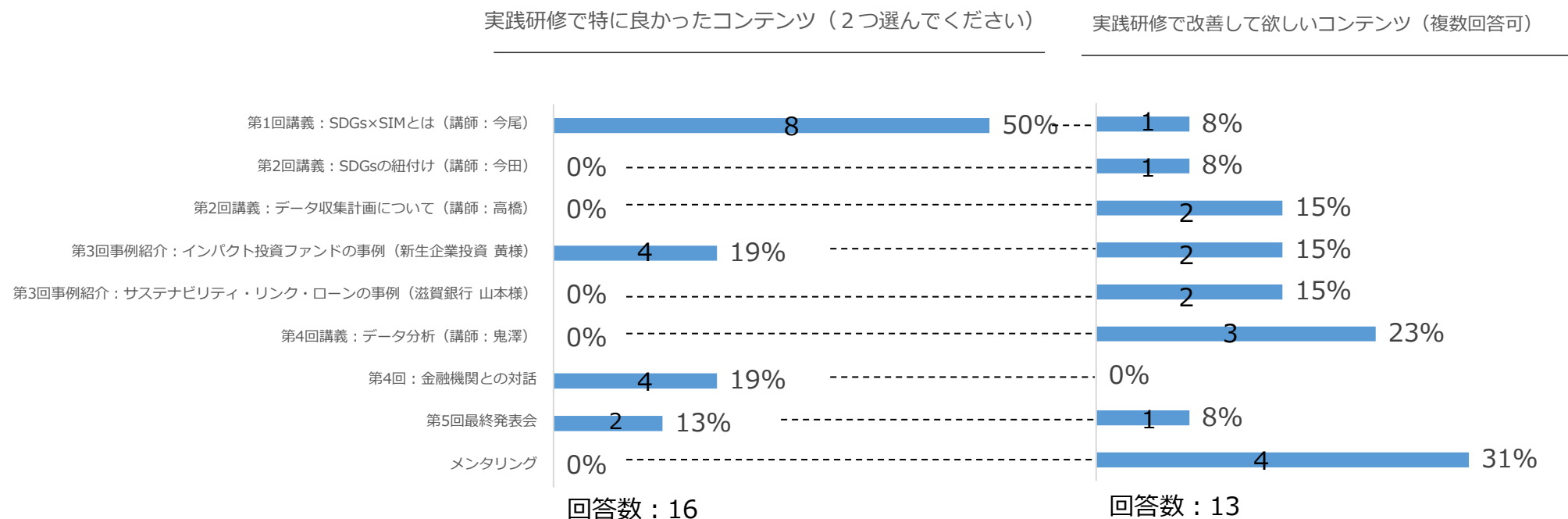
発表に対する
コメントの一部

- 保育士不足の課題は多くの方が認識している重点課題である。（指標として設定している）報酬や就労率の改善については前回の発表から改善しており、素晴らしいと思った。また、SDGsのゴールの拡張性を持たせることが重要であるので、現状に加えて、それを（ロジックモデル上に）表現したら良いと思う。（キャリアフィールド株式会社への新生企業投資株式会社黄氏からのコメント）
- （石渡住宅サービス合同会社にとって）このロジックモデルを作ることで新規事業を考えるヒントになったのではないと思う。在宅ワークやデュアルライフが増えてきた中、住宅サービスを多様な人に提供する視点が芽生えたら良いと思った。それにより、若者とお年寄りが交流することで、街を活性化できたりもするだろう。また、他社と連携する視点が入っても良いと思った。（石渡住宅サービス合同会社への新生企業投資株式会社黄氏からのコメント）

2 アンケート結果—実践編（最終アンケート）

- 実践編の最終アンケートを実施した。「SDGsインパクト・マネジメントとは」の講義で特に肯定的な回答が得られた一方、メンタリングについては改善が求められた。

アンケート結果



良かった点としては、金融機関からの接点や直接の評価を得られた点が挙げられ、改善点に関してはロジックモデル作成の講義回数や各回の目的設定の分かりづらさが挙げられた。

コンテンツの良かったところ

- 金融機関様のSDGs投資についての“一般的な”取り組みだけでなく、弊社事業に対しても生の評価までいただいたのが、リアルに良かった。
- 金融機関の方との接点を持てたこと、その方々の視点を知れ、その方々からのフィードバックをもらえたことで、更新されたり先に繋がりそうな感触を得られたりした。

コンテンツの改善点

- 金融への繋がりを多く期待していない企業にとってはロジックモデル作成に関する講義の回数を増やして頂きたかったと感じました。
- 第1回～第3回あたりは全体的に研修をどこに着地させようとしているかがわかりづらかった感がありました。

自由記述の一部

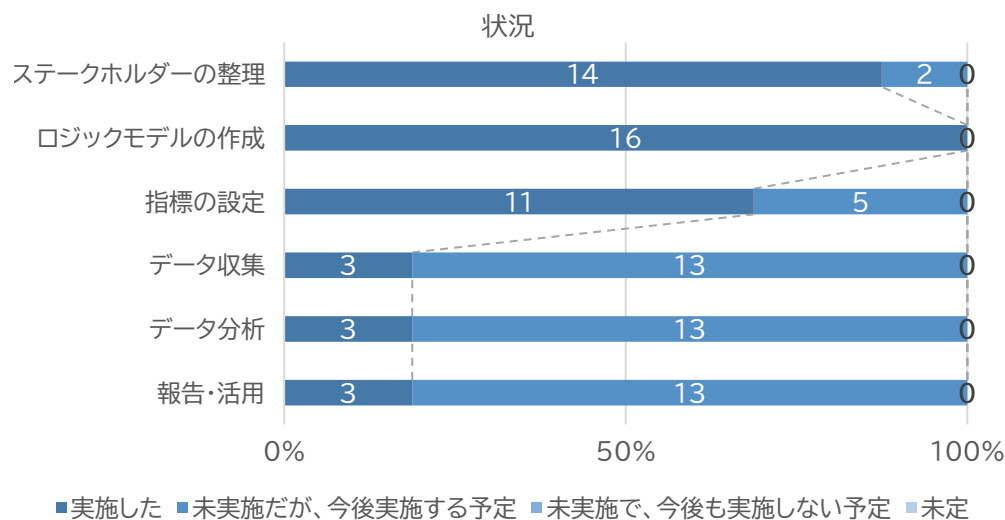
2 アンケート結果—実践編（最終アンケート）

- 社会的インパクト・マネジメントは、多くの参加者が「ステークホルダー整理」「ロジックモデル」まで実施済みで、社内への浸透に活用している回答は半数にのぼった。

アンケート結果

7割以上が指標の設定まで実施済みと回答

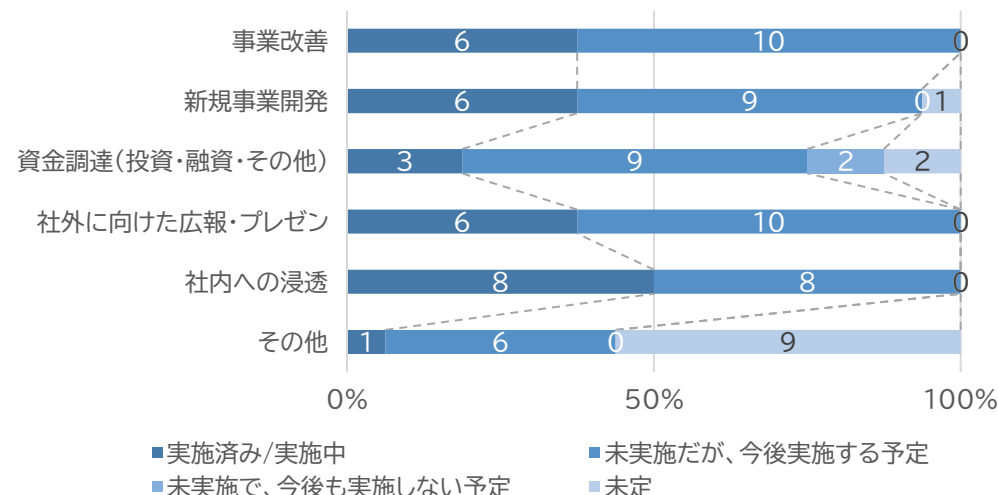
社会的インパクト・マネジメントにおける各ステップの現在の実施



回答数：16

活用の展望として「社内への浸透」という回答が多く半数にのぼる

社会的インパクト・マネジメントの活用状況・展望



回答数：16

自由記述の一部

SIM実施における障壁としては、マンパワー不足や専門知識の不足が挙げられ、SIM活用については社内検討を通じて新たな気づきを得たことや今後組織改善を目指すことが挙げられた。

SIM実施における障壁

- 専門知識の不足、マネジメント役の恐らくの力不足、マンパワーの不足
- 実証実験の場所やパートナーの確保

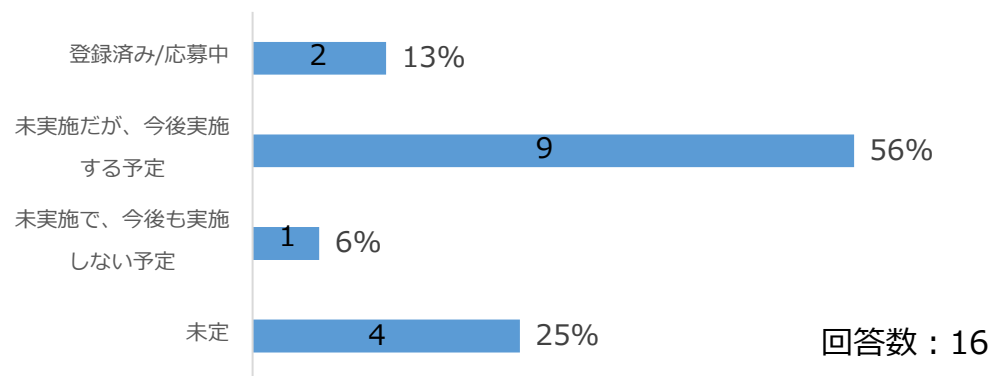
SIM活用におけるエピソードと今後の展望

- ロジックモデルを作成する過程での社内検討で、新たな機能の必要性に気がつくことができました
- 今回の研修で学んだ事を社内で共有し、足腰の強い組織にする目標ができました

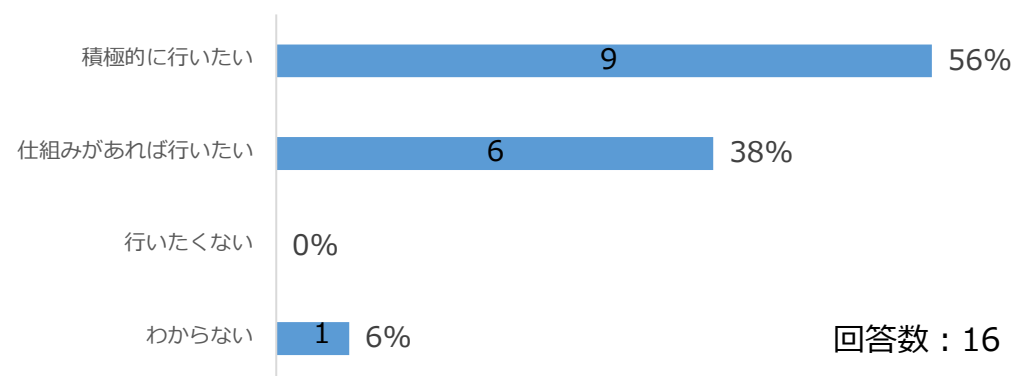
2 アンケート結果—実践編（最終アンケート）

- 神奈川県とは、かながわSDGsパートナー等で半数以上が積極的にコミュニケーションを行いたいとし、他の参加者についても6割以上が継続したいと回答した。

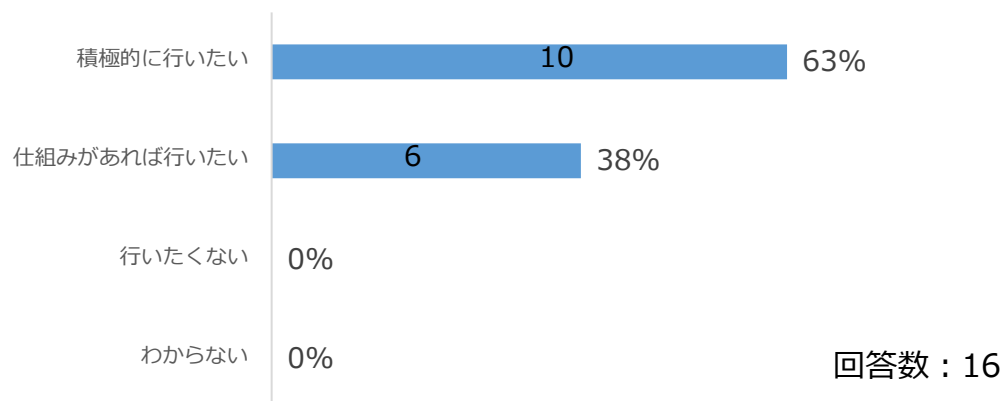
半数以上が登録済み及び今後応募予定と回答
かながわSDGsパートナーの応募・登録状況



半分以上が神奈川県と積極的にコミュニケーションを取りたいと回答
SDGsパートナー以外での、神奈川県とのコミュニケーション継続希望



6割以上が他の参加者と積極的にコミュニケーションを取りたいと回答
今後の研修参加者とのコミュニケーション継続希望



コミュニケーションツールとしてSlackを使いたいという回答が多い
研修参加者とのコミュニケーション方法に関する希望

